和泉短期大学 同窓会
～人と人のつながりを大切に　和泉とともに～

いずみ

玉川保母専門学院・和泉短期大学・和泉（老人）福祉専門学校の同窓生と母校をつなぐ会報誌

2026年9月発行
第17号

新学長挨拶　大下 聖治

ー歴史を紡ぎ、未来へ繋ぐ「オール和泉」の挑戦ー



同窓生の皆様、こんにちは。本年４月に和泉短期大学第９代学長に就任いたしました大下聖治でございます。

創立70年という伝統と実績を誇る本学の舵取りを任された責任の重さを、今あらためて深く受け止めております。同時に、これからの和泉短期大学がさらなる発展を遂げるために、私自身が果たすべき使命に確固たる決意を抱いております。これまでの伝統を大切にしつつ、時代に即した変革を恐れず、本学の未来のために全力を尽くす覚悟です。

皆様もご承知の通り、本学は開学以来、キリスト教信仰に基づく「愛と奉仕」をスクールモットーに掲げ、保育・福祉・幼児教育の現場へ数多くの優秀な人材を送り出してまいりました。現場の第一線で、あるいは地域や家庭において、誠実に、そして優しく他者に寄り添いながら活躍されている同窓生の皆様の姿こそ、本学の何よりの財産であり誇りです。

同窓生の皆様が長年にわたり築き上げてこられた信頼と実績こそが、社会から高く評価されている「和泉ブランド」に他なりません。「和泉の卒業生なら間違いない」「和泉で学んだ人は、専門性と豊かな人間性を兼ね備えている」――こうした声は、本学が積み重ねてきた歴史の証であり、次世代へ継承すべき大切な価値です。この確固たる「和泉ブランド」をさらに輝かせることが、新学長である私の最大の使命であると考えております。

しかしながら、現在の高等教育を取り巻く環境は、少子化の進行や社会情勢の急速な変化など、決して平坦な道ばかりではありません。この大きな転換期を乗り越え、本学が未来に向けて飛躍するためには、学内だけにとどまらない、より強固な結びつきが不可欠です。

そこで私は、これからの大学運営において「オール和泉」の精神を最優先に掲げたいと考えております。「オール和泉」とは、同窓会、父母会、後援会、そして教職員がこれまで以上に深く連携し、一つの大きな家族のように和泉短期大学を支え、応援していく強力なネットワークのことです。

とりわけ、社会の先輩であり、本学の良き理解者である同窓生の皆様の力は、これからの和泉を支える大きな推進力です。皆様が歩まれた道は、在学生にとって道標であり、憧れそのものです。「オール和泉」の体制を確立することで、いかなる時代の荒波も乗り越え、新しい時代にふさわしい保育・福祉・幼児教育のリーダーを養成できると確信しております。

同窓生の皆様におかれましては、母校の未来にどうぞご期待ください。そして、変わらぬ愛着と温かいご支援・ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

結びに、同窓会の益々のご発展と、会員の皆様のご健康とご多幸を祈念いたしまして、私の就任の挨拶とさせていただきます。

学校法人和泉短期大学　サポーターズ会員制度

和泉短期大学サポーターズ会員制度とは、本学が実施する施設整備、教育・研究活動の財政的支援として、定期的に寄付のご案内をさせていただき、継続的・安定的なご支援をいただくものです。本学の貴重な財源として、様々な事業に有効に活用させていただきます。甚だ恐縮ではありますが、皆様の温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。会員にお申込みいただきました皆様に「会員証」を 発行いたします。個人または法人とご寄付の方法をお選びいただけます。

詳しくはホームページまたは、二次元コードより募集事項をご確認お願いいたします。

2026.2.21(土) 第16回通常総会を開催

和泉短期大学内にて第16回通常総会（改選）が開催されました。
教職員の方々、父母会様、後援会様、卒業生などにご出席いただき、活動報告・会計報告・予算等、滞りなく進行され承認されました。
総会後には近況報告や和泉の今と今後を語りあうひと時をもつことができました。

和泉短期大学　役員一覧

役職	名前	期	学籍番号
会　長	川井　赳彦	42 期	06182
副会長	臼井智恵子	26 期	90078
副会長 兼書記	松井　芳弘	39 期	03254
書　記	林　　和也	専攻科 6 期	F1517
会　計	大石さち子	48 期	12081
	利田　未樹	48 期	12156
会計監査	洲藤　和泉	26 期	90088
	遠藤　陽子	26 期	90067
監　事	佐藤　美紀	専門 12 期	96014
	曾根真理子	23 期	62216

任期　2026 年 1 月 1 日～ 2027 年 12 月 31 日

会長挨拶 川井 赳彦（42 期生）



同窓会いずみ会員の皆さまには、ますますご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。日頃より同窓会活動に温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

近年、少子化や人口減少、物価高騰、AIをはじめとする技術の進歩など、社会は大きく変化しています。保育・福祉の現場でも、子どもや家庭、利用者の多様なニーズに応えるため、これまでの仕組みや施設のあり方を見直すことが求められています。

私自身、幼稚園の現場に身を置く中で、その変化を日々感じています。これまでの経験を大切にしながら、これからの時代に求められる保育を考え、新しい環境や仕組みづくりにも挑戦しています。変化の中でより良い教育・保育を届けるためには、私たち自身も学び、変わり続けることが大切なのだと感じています。

こうした変化は、和泉短期大学にとっても無縁ではありません。少子化や進学先の多様化など、短期大学を取り巻く環境は厳しさを増しています。しかし、子どもや人に寄り添い、地域を支える専門職を育てるという和泉の役割は変わりません。人と向き合う力が求められる今だからこそ、和泉で学ぶことの価値は、ますます高まっているのではないでしょうか。

同窓会いずみも、変化を前向きに受け止め、母校と卒業生、在校生をつなぐ存在として、和泉の未来を支えていきたいと思います。

保育・福祉をはじめ、それぞれの場所で人のために力を尽くしている卒業生の皆さまに、心より敬意を表します。皆さまの日々の仕事は、人々の成長や暮らしを支え、社会の未来につながる大切な営みです。

そして、これから社会へ羽ばたく在校生の皆さん。和泉で学ぶことに誇りを持ち、変化を恐れず、自分らしい一歩を踏み出してください。同窓会いずみは、皆さんの未来を心から応援しています。

和泉短期大学のさらなる発展と、同窓生の皆さまのご健康、ご活躍を心より願い、ご挨拶とさせていただきます。

ご寄付をいただきました！

このたび、名誉教授の武石宣子先生より、同窓会の活動に温かいご寄付をいただきました。
長年にわたり和泉を支えてこられた先生からのご厚意に、心より感謝申し上げます。
いただいたご寄付は、同窓会のさらなる充実と発展のため、大切に活用させていただきます。
武石先生、温かいお心遣いをありがとうございました。

和泉短期大学 70 周年記念事業として バリアフリー化推進事業 （エレベーター設置）寄付のご報告

和泉短期大学70周年を記念し、母校のさらなる充実と学生の学びやすい環境づくりを願って、バリアフリー化推進事業（エレベーター設置）への寄付を行いました。
同窓生の皆様からいただいた温かいご支援に、心より感謝申し上げます。今後も母校の発展を願い、同窓会として応援してまいります。

同窓会いずみ　決算・監査報告書、収支予算書案のご報告

同窓会いずみの決算・監査報告および収支予算書は和泉短期大学ホームページ内にあります。
同窓会ページに公開致しますのでそちらをご覧ください。

右の二次元コードから和泉短期大学HPの同窓会ページをご覧いただけます

「ありがとう守男先生」特別インタビュー

インタビュアー：洲藤和泉・臼井智恵子（26期生/1992年3月卒業）
『守男先生が初めて担任をされたCグループの二人です。』

Q1 長年にわたり和泉短期大学で教鞭をとられ過ごされた日々の中で、今振り返ると一番心に残っている出来事は何ですか？

私が和泉短期大学に応募したのは、今から37年ほど前の1990年だったかと思います。公募条件は①キリスト者であること、②大学院を出ていること、③教員免許を持っていることで、和泉短期大学に就職が決まったら、①美術関係の授業を持つこと、②実習の授業を持つことでした。私は美術関係の授業の準備をすることに忙殺され、実習の授業を持つことをすっかり忘れてしまいました。やがて新年度を迎え、２年生の保育所実習の授業を担当したのですが、保育所を見たことも行ったこともない私は、教科書を読んでもまったくわからず、今でもなんと無責任な授業をしたのかと思うと、当時の学生達には申し訳ない思いで、いっぱいです。

Q2 和泉のシンボルの一つであるステンドグラス制作に込められた思いや、制作当時の秘話、そして完成した作品をご覧になったときのお気持ちについてお聞かせください。



和泉クラークホールは1992年度に完成し、その年の卒業式から本格的に使用されたと記憶しています。完成当初はパイプオルガンもステンドグラスもなく今よりも閑散としていましたが、それでも立派に思えました。その後創立50周年事業としてフィンランド製のパイプオルガンが設置され、創立60周年事業でステンドグラス10枚が次々に設置されました。

さて、ステンドグラスですが、これは和泉から私への依頼でした。この件については随分に悩みました。私は立体造形作家で、平面の作家ではないのが大きな理由です。１枚の大きさが、ほぼベニヤ２枚分、私にとっては、途方もない未知への挑戦でした。幸いにも10枚ともすべて、ガラスはアンティークガラスを使用することができ、今から思うとこのような機会を与えられたことは幸いでした。

和泉クラークホールに入ったステンドグラス10枚はキリストの一生を描いたものです。完成して最初に思った事は、正直ほっとしました。と同時に、我ながら、よく描けたなぁと思いました。あの10枚は神の導きがなければ描けなかったと思います。自分の仕事の中でも、あれから平面の仕事が好きになり、デッサンをよく描くようになりました。

Q3 先生はいつも学生一人ひとりを大切にされていた印象があります。学生と関わる中で、特に大切にしてこられたことはありますか？



教え子を指導する時、あまり、窮屈に抱え込まないようにしています。人にはそれぞれ持って生まれた人生があり、その時は良く思えなくても、距離を持って見守る。後は神様に委ねてきました。

Q4 先生にとって「和泉らしさ」とは何でしょうか？

授業やアルバイトで忙しい毎日を送りながらも、18～19歳の学生たちがボランティアに積極的に取り組む姿勢は本当に素晴らしく、深く感心したことを今でも覚えています。

また、和泉の学生は、自分の才能を自覚していない人が多いという印象があります。逆にそれだからこそ、いつからでも謙虚に誠実に目の前のことに素直に挑戦できるのかもしれません。和泉の卒業生は骨太で大器晩成型という印象です。和泉の卒業生、がんばれ！応援しています。

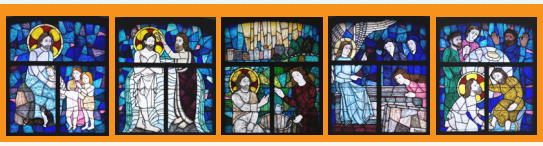
Q5 学長職を退かれた今、新たに楽しみにされていることや挑戦したいことはありますか？

これからは、健康寿命を少しでも伸ばすよう気を使い、個人として残されたテーマを、彫刻で少しでも多く表現したいと思っています。

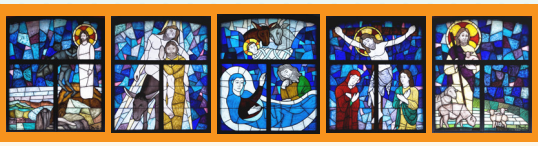


最後に、全国で活躍する卒業生の皆さんへメッセージをお願いします。

和泉の卒業生の皆さん、与えられた才能を惜しみなく使って、人生を楽しんでほしい。



チャペルを彩る10枚の光 ステンドグラス制作物語



礼拝や式典などで目にしてきたステンドグラスは、2004年から約7年の歳月を経て、2011年10月に完成しました。今では和泉短期大学を象徴する風景の一つとなっています。

制作では、人物の顔が窓の補強材に重ならないよう構図を工夫し、吹きガラスならではの豊かな風合いをもつ大きなアンティークガラスを安全に支えるための強度にも配慮するなど、美しさと機能性を両立させるため、一枚一枚に丁寧な試行錯誤が重ねられました。

また、作品全体の色調については、伊藤忠彦先生と相談を重ね「青」を基調とした落ち着きのある色彩が選ばれました。時間や季節によって表情を変えるやわらかな光は、チャペルを訪れる人々を優しく包み込み、静けさと安らぎを感じさせてくれます。

また、10分の1サイズのミニチュア作品も制作され「降誕」など3作品は須田拓理事長が牧師をされている橋本教会に設置されています。機会がありましたら、ぜひ足を運んでみてください。制作を支え、完成を心待ちにされていた平良理事長の思いも受け継ぎながら完成したステンドグラスは、今も和泉の歴史とともに静かに輝き続けています。

お忙しい中、今回のインタビューにご協力いただいた佐藤守男先生に心より感謝申し上げます。この特集が、卒業生の皆様にとって母校を再び訪れるきっかけになれば幸いです。

同窓会活動報告

SC相模原スタジアム託児室

昨シーズンに引き続き、相模原のプロサッカーチーム「SC相模原」（J3）のホームゲーム（ギオンスタジアム）にて和泉短期大学と株式会社OHARA、SC相模原の相互協力のもと託児室を開設しています。託児スタッフとして同窓会や学生ボランティアが参加し利用者の方には好評をいただいています。
ご興味のある方はぜひスタッフとして加わってみませんか？公式LINEなどからお気軽にお問合せください。



同窓会いずみでは、みなさまからお預かりしている同窓会費を様々な形で、卒業生や在校生のために使わせていただいています。入学祝や卒業祝い品、クリスマス礼拝や焼き芋会など学校行事においても支援させていただきました。いずみ祭では「ひろっぱ」に地域の方を含め、多くの卒業生も遊びに来ていただきました。

いずみ祭 ホームカミングデー
いずみのひろっぱ
（卒業生と教職員の交流スペース）

開催日時　10月24日（土）10時～15時

場　　所　和泉短期大学　1号館 200教室

● 事前申し込み不要、当日直接短大にお越しください。



第17回通常総会のお知らせ

開 催 日　2027年２月20日（土）

時　　間　13:00受付開始　14:15終了予定

場　　所　和泉短期大学

対　　象　玉川保母専門学院・和泉短期大学
和泉（老人）福祉専門学校卒業生

終了後に学校関係者との茶話会を開催予定！
先生とのお話に華を咲かせましょう

出席をご希望される方は、和泉短期大学ホームページ内にある同窓会ページからご連絡ください。

同窓会いずみには公式LINEがあります！

同窓会や学校の情報、各種講座のお知らせなど情報をお届けしています。ぜひご登録いただき、同級生の皆さんにも広めてください！



編 集 後 記

今号は、和泉短期大学にとって大きな節目となる、学長交代の時期に編集することとなりました。新旧両学長との歩みや思い出に心を馳せる中で、改めて和泉が多くの人々のつながりによって支えられてきたことを感じています。

「主はぶどうの木、私たちはその枝」。この御言葉のように、私たちはそれぞれの時代、それぞれの場所で枝を伸ばしながらも、和泉という一本のぶどうの木につながっています。世代や立場を越えてつながる「オール和泉」の姿は、まさにその枝々のようでもあります。

学長交代という節目を迎えた今、これまでの歩みに感謝するとともに、主に結ばれた「オール和泉」のつながりを大切に、これからも豊かな実を結んでいけることを願っています。

今号の発行にご協力くださいました皆さまに、心より感謝申し上げます。

同窓会いずみ　副会長　松井 芳弘

編集・発行 同窓会 いずみ

〒252-5222
神奈川県相模原市中央区青葉2-2-1
（和泉短期大学事務局内）
電話：042-754-1133
FAX：042-753-2087
発行責任者：会長 川井赳彦